



鯛や残るは死なる大仕事
 綱引きの顔みな怖し鰯雲
 躑口屈みし我と月の入る
 海坂をふくらんでくる盆の波
 山々の相聞は風秋に入る
 露草の耳打ち聞こゆるほど屈む
 目の合はぬやうに夜店のきつね面
 八月や命を濃しと思ふとき
 鉤曲がりかな列島も台風も
 花すすき舟を担ぐに肩ぶとん
 魚跳ねて釣瓶落しの始まれり
 忘れられ秋風鈴となりにけり
 更地には早刈萱の風を呼ぶ
 鬼火の貌もちてかたくな鶏頭花
 観音の光放つや夕焼雲

中村 重幸
 川高郷之助
 平松うさぎ
 小倉 征子
 須賀ゆかり
 菅原 健一
 朝長美智子
 七田 文子
 広海あぐり
 栗坪 和子
 澤田 英紀
 西井薫美子
 牛島 晃江
 枇杷木 愛
 坂井 博

つぶやきをかたちになれば吾亦紅
 月光の艶を貰うて青林檎
 さるすべりの百日目にもある余力
 指葉して初秋の風を聴く
 追憶はなべて横顔走馬灯
 月光と水琴窟の密語かな
 老い詠むにいまが歳ごろ星月夜
 絶対音感あらば帰燕の歌聞かむ
 子の無きはこの薄甘き梨に似て
 幽谷の神の声とも滝の音
 花野とは風の道草するところ
 大向日葵かつと濁世を見据ゑたる
 添水鳴るわけでも遙かなるものに
 桃の実の正中線と言ふがあり
 モノクロの街に向日葵見つからぬ

林 昭太郎
 甲州 千草
 高木 嘉久
 栗原 公子
 塙 誠一郎
 千田 百里
 千田 敬
 辻 美奈子
 成宮紀代子
 内山 照久
 七種 年男
 田辺 博充
 岡部 玄治
 細川 洋子
 村上 葉子

